

平成29年(2017年)6月16日(金曜日)



6月初旬の夜、見頃を迎えたホタルを見に市内をそぞろ歩いた。川岸の茂みから淡い光が一つ、また一つと浮かんで消えていく。一度は何十匹も見られたわけではないが、控えめな雰囲気がかえって情緒的だった。

ホタルは、古くは源氏物語で和歌に詠まれるなどして親しまれてきた。漂う光を死者の魂に重ね

### ホタルとかけがえのない営み

る風習もあり、その存在ははかなさを好む日本人の、いわば感性のルーツだろう。ホタルを初めて観賞した私が、なぜか懐かしさを感じたことは無関係でないと思う。

生息場の一つである源兵衛川では市民の熱心な取り組みで個体の確認数が増え続けている。市街地でホタルを見られるとはすてきた。後世へのこうした営みもまた、かけがえない。

(三島支局・河村英之)